

# 諸國日々新聞集

二百七十六号



飾磨縣下中村に住る田村龜吉

をこの名を業とする小明治七

戌十二月十五日士族二名此家

止宿す又商人一人隣

間小止宿せり若干の

念を主小預け安心

しと即せり夜半こ及び

まを胸をささげわが隣の

士族小わがわが君の傍か

しめあくと云々わが情ある者

業と与へんとしめたり龜吉の

息の隣家小あそびて夜あけて

飯り商人の寐床

是幸ひと

つりたる父の

かくとも

の短刀持て去のひ来り我子とつゆあは

喉を只一刀の小通し片手の陰囊を

つりしあちをわが聲をもついで

あつてかり士族ハ此音ハヤウヤウ

立聞よ朝龜吉を縛して

其區の會議所へ送らる

柳櫻記

旅籠屋龜吉



川

傳川

影福